

製造業

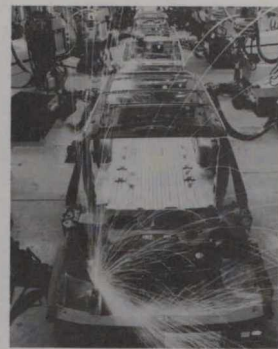
州総生産の七三％ 中心は自動車産業

オンタリオ州は、製造業の州ともいわれるように、工業（製造業）が最大の産業である。州内総生産の七三パーセントを製造業で占め、州民三人に一人がこの部門で働いている。

州北部で採れる豊富な資源を原料とし、電力、天然ガスなどの安価なエネルギーを使い、車で一日行程の範囲にある一人の消費市場（米国も含む）を相手にして、オンタリオ州南部を中心にさまざまな製造業が発達した。

その中で就業者数（約十二万人）、生産高（約千五百億ドル）とも群を抜いて多いのは、自動車産業である。州南部に

あるウインザー、オークビル、オシャワ、ブランプトン、ハミルトンなどの都市は、近代設備の自動車工場や部品工場が林立し、自動車王国といった感がある。カナダで生産される自動車とその部品の九割近くは、これらの工場で作られている。



ウインザーにある自動車組立工場。コンピュータ制御のロボットで溶接している。

昨年カナダの輸出は、自動車関連がトップを占め輸出総額も大きく伸びたが、それをリードしたのが、オンタリオ州の自動車産業であった。こうした今日の隆盛のもとになったのは、一九六五年の加米自動車協定。この協定によってカナダと米国の間の自動車（部品を含む）貿易

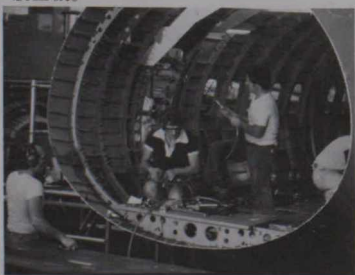
は無関税となり、生産量・貿易量とも飛躍的に拡大した。

現在、オンタリオ州の自動車産業は、増産ブームにわく一方で、体質の強化改善に取り組み傾向が見られる。部品メーカーはCAD（コンピュータ支援設計）やロボットの導入に意欲を示し、また、日本の在庫管理方式を取り入れた生産・流通システムの合理化も多く見られるようになった。

自動車組立て工場は米国系資本が中心だが、部品産業はカナダ資本によるものが多い。最近では欧州からの直接投資も増え、例えばフランスのメーカーによるアルミ製ラジエーター工場の新設や、西独メーカーによる電気自動車用バッテリー工場の新設が四月に発表されている。日本のホンダが小型車生産工場を作るというニュースも、また耳新しい（別項参照）。オンタリオ州の製造業としては、自動車のほか、金属（一次製品と加工）と食品も盛んである。出荷高（一九八〇年）では、金属一次製品が約七十三億ドル、金属加工が約五十九億ドル、食品が百二十億六千万ドル。食品は、野菜、果実、家畜、酪農など豊富な農産物を背景に多品種を加工している。セントキャサリンズのワイン、果実・野菜かん詰、キッチンナーの食肉加工が有名。

州製造業のなかで鉄鋼産業の重要性を見落すことはできない。生産高は全国の八割を占め、とくに高炉はオンタリオ州だけに集中している。カナダ鉄鋼産業のビッグスリーのうち二社が鉄鋼の町ハミ

デハビランド社の工場では組立てられる航空機。



とした仕事に従事しているし、トロント、オタワ、ミシソーガなどの各地でも、最先端の宇宙航空、情報通信企業が活躍し

オンタリオ州の

主な産業

資源、輸送、立地、マーケット——あらゆる条件に恵まれたオンタリオ州は、カナダの産業の中心だ。製造業、ハイテク産業、林産、食品加工、観光、金融、商業……と、さまざまな分野でオンタリオ州は一頭地を抜いている。

先端技術産業

生産高、全国の六割 航空、情報機器など

ルトンを拠点とし、建設、器具、金物を製造する企業の多くは、ハミルトン、バーリントンなどの近辺に集まっている。以上のほか、オンタリオ州には機械、電気・電子機器、石油精製、石油化学、航空機などほとんどの重要産業が揃っている。注目すべきは出版印刷への就業者が多いことで、トロントを中心に文化産業が盛んなことを物語っている。

オンタリオ州は、カナダのハイテク産業でも、製造業以上に指導的役割を演じている。州のハイテク産業生産高は、全国の五九パーセントに及び、成長率は年平均五・三パーセントと高い。カナダのシリコン・バレーといわれるオタワ・カールトン先端産業地域では、二百数十社がプラントを構えて、一万四千人がマイクロエレクトロニクス（ME）関係を中心